

第2章 甲斐市の特性

※本書の統計表及びグラフ中の構成比は、四捨五入による端数を調整していないため、内訳合計と総計は必ずしも一致しません。

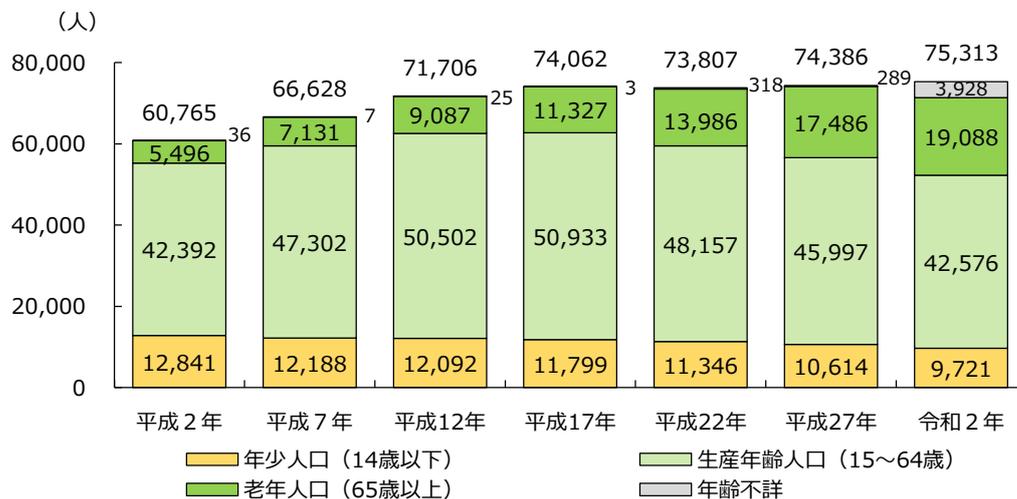
第1節 人口構造

(1) 人口の推移

甲斐市の総人口をみると、平成2年以降増加傾向にありましたが、平成22年に減少に転じたのち、再び増加しています。

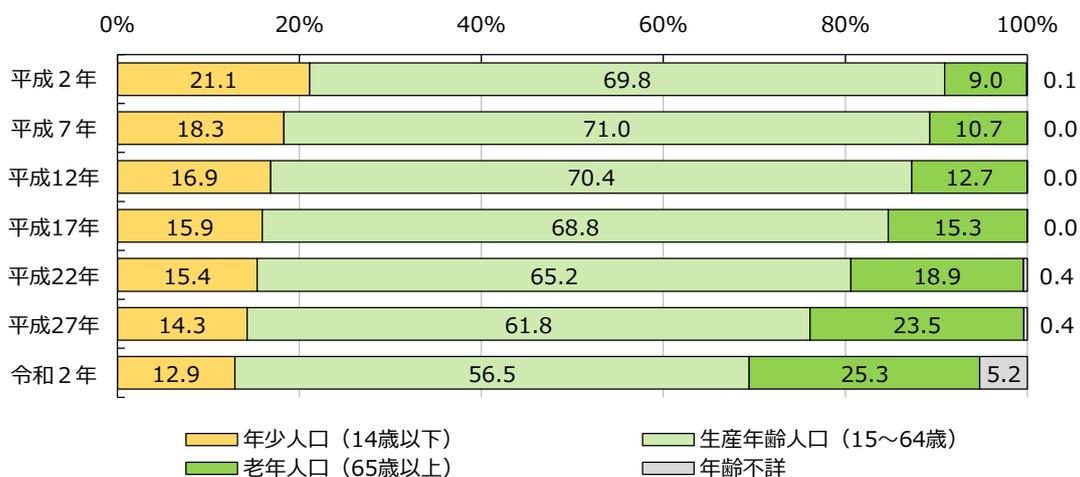
年齢3区分別人口をみると、年少人口の減少と、老年人口の増加が続いています。年齢3区分別人口構成比をみても、平成22年に老年人口割合が年少人口割合を上回って以降、その差が広がっていることから、少子高齢化が進んでいることがわかります。

●総人口と年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査

●年齢3区分別人口構成比の推移

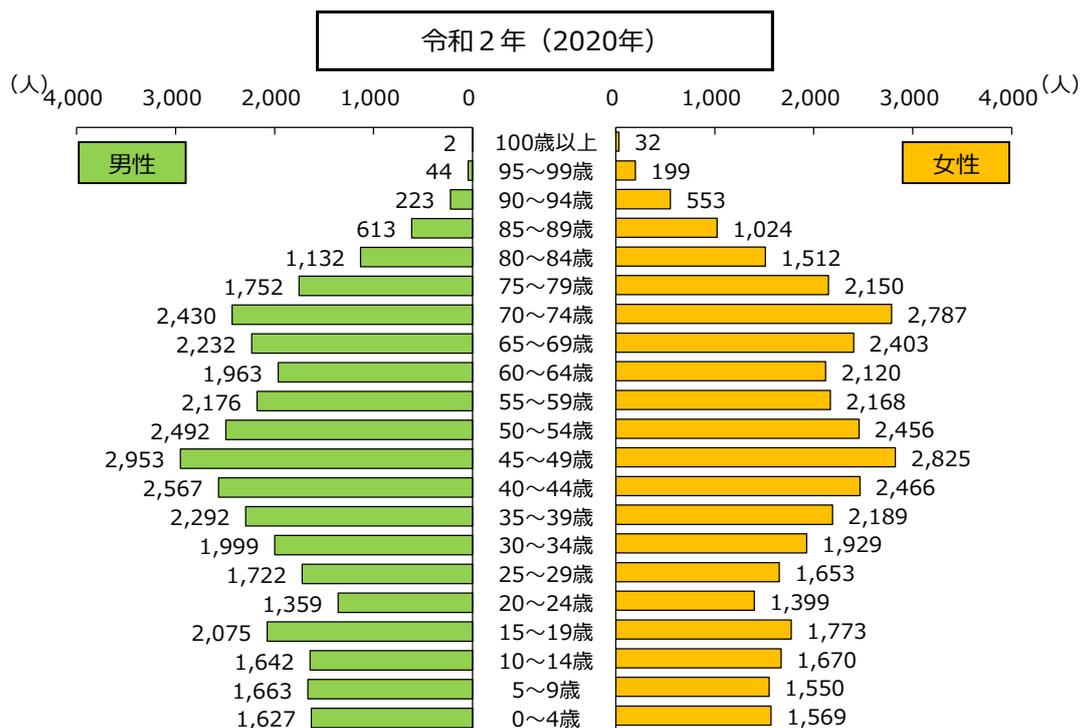
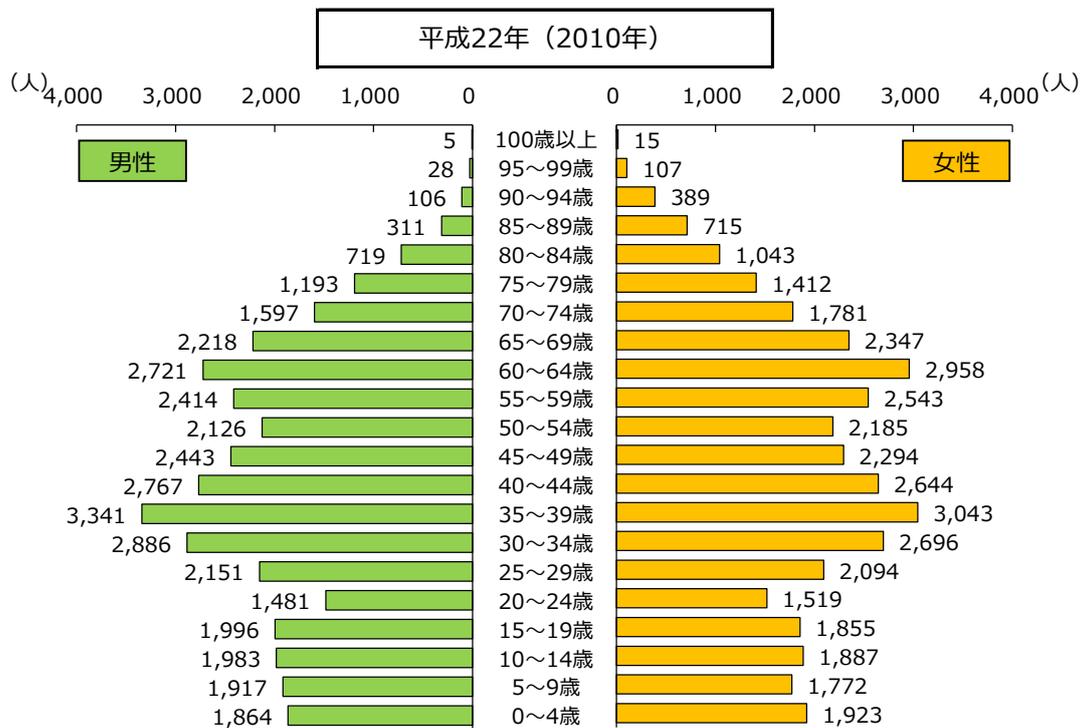


資料：国勢調査

(2) 人口ピラミッド

平成22年と令和2年の5歳階級別人口を比較してみると、少子高齢化が進行していることがわかります。0～14歳の年少人口は平成17年と比較して減少しているため、今後さらに少子高齢化は進行していくと予想されます。

●人口ピラミッドの比較（平成22年・令和2年）



資料：国勢調査

(3) 自然動態・社会動態

自然動態の推移をみると、出生数は平成28年以降減少傾向にあります。一方、死亡数は増減があるものの概ね600人台で推移しています。自然増減はプラスで推移していましたが、令和3年には死亡数が出生数を上回る自然減となっています。

次に、社会動態の推移をみると、転入数、転出数ともに増減を繰り返して推移しています。転入数が毎年3,500人前後、転出数がそれをやや下回る人数となっており、平成28年以降は転入数が転出数を上回る社会増が続いています。

また、自然増減と社会増減を合わせた人口増加数は、平成28年以降プラスで推移しており、令和3年においては198人の増加となっています。

●自然動態の推移

単位：人

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
出生数	720	704	715	673	670	633
死亡数	577	621	664	669	611	637
自然増減	143	83	51	4	59	-4

資料：山梨県人口動態統計

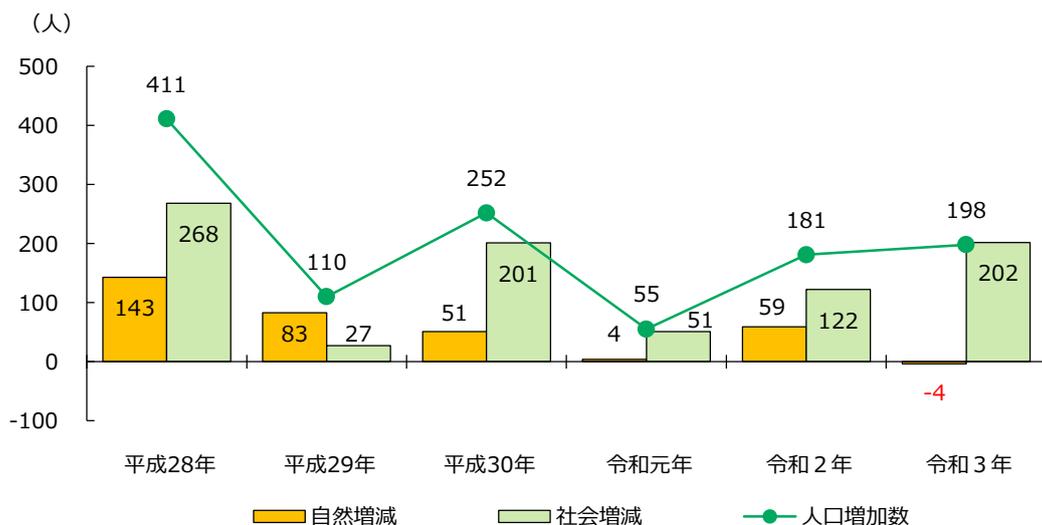
●社会動態の推移

単位：人

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
転入数	3,528	3,396	3,513	3,510	3,270	3,463
転出数	3,260	3,369	3,312	3,459	3,148	3,261
社会増減	268	27	201	51	122	202

資料：山梨県常住人口調査結果報告

●自然動態・社会動態からみた人口増加数の推移



第2節 出生の状況

(1) 出生数・出生率・合計特殊出生率

出生数及び出生率は減少傾向がみられ、令和3年の出生率は8.5となっていますが、依然として山梨県や全国を上回るものとなっています。

合計特殊出生率^{*}は、令和3年は1.60未満となりましたが、令和2年までは1.65以上で推移しています。また、毎年山梨県や全国の数値を上回っています。

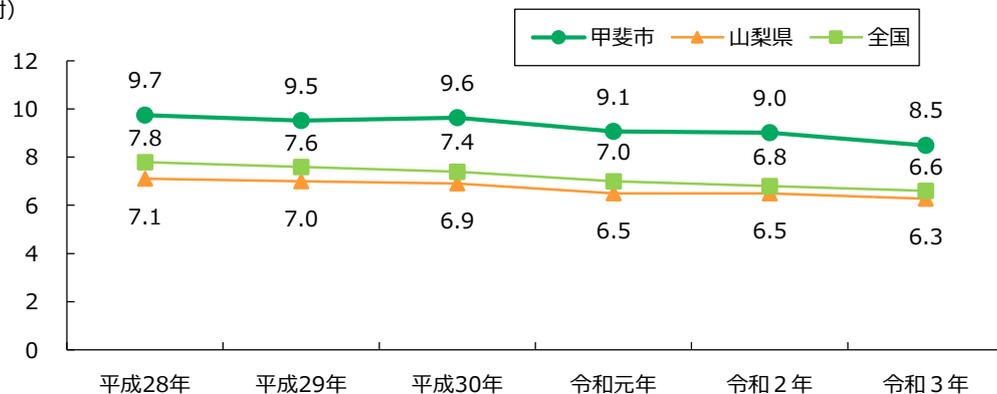
●出生数・出生率・合計特殊出生率の推移

		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
甲斐市	出生数(人)	720	704	715	673	670	633
	出生率(人口千対)	9.7	9.5	9.6	9.1	9.0	8.5
	合計特殊出生率	1.66	1.67	1.71	1.65	1.67	1.59
山梨県	出生率(人口千対)	7.1	7.0	6.9	6.5	6.5	6.3
	合計特殊出生率	1.51	1.50	1.53	1.44	1.48	1.43
全国	出生率(人口千対)	7.8	7.6	7.4	7.0	6.8	6.6
	合計特殊出生率	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30

資料：山梨県人口動態統計(甲斐市)、厚生労働省人口動態統計(山梨県・全国)、甲斐市健康増進課

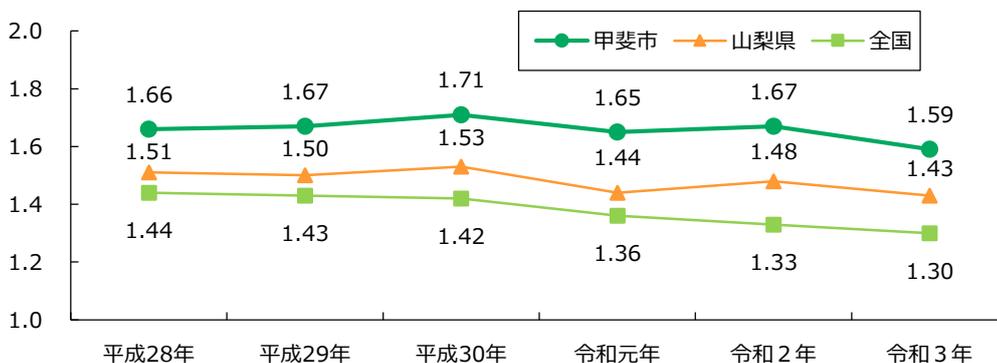
●出生率の推移

(人口千対)



資料：山梨県人口動態統計(甲斐市)、厚生労働省人口動態統計(山梨県・全国)

●合計特殊出生率の推移



資料：山梨県人口動態統計(甲斐市)、厚生労働省人口動態統計(山梨県・全国)、甲斐市健康増進課

※合計特殊出生率：一人の女性とその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

(2) 低出生体重児出生数・割合

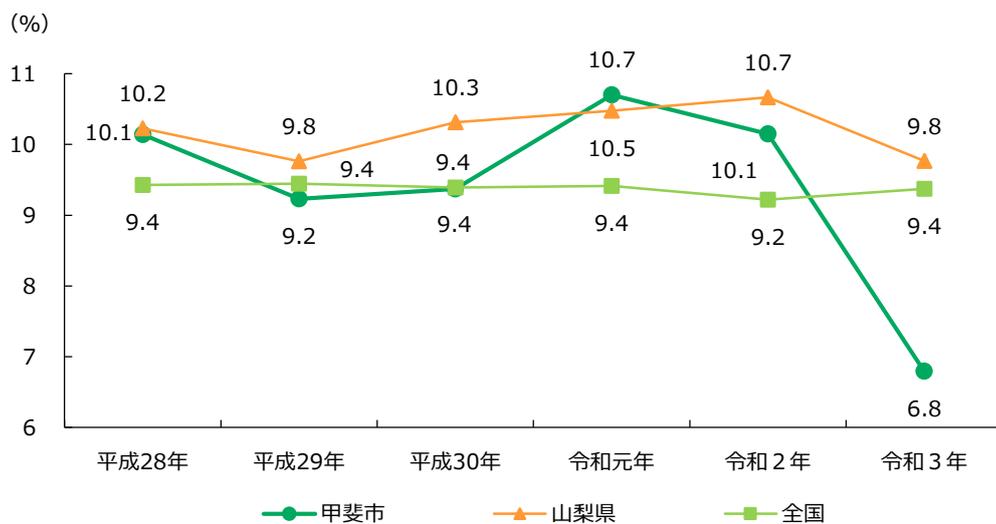
低出生体重児（出生体重が2,500g未満児）の出生数は、平成28年以降70人前後で推移していましたが、令和3年は43人に減少しています。出生数に対する低出生体重児の割合は、山梨県や全国とほぼ同水準で推移していましたが、令和3年については6.8%と低く、山梨県や全国を大きく下回っています。

●低出生体重児（体重2,500g未満）出生数・割合の推移

		平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年
甲斐市	低出生体重児出生数（人）	73	65	67	72	68	43
	出生数に対する割合（%）	10.1	9.2	9.4	10.7	10.1	6.8
山梨県	出生数に対する割合（%）	10.2	9.8	10.3	10.5	10.7	9.8
全国	出生数に対する割合（%）	9.4	9.4	9.4	9.4	9.2	9.4

資料：山梨県人口動態統計（甲斐市）、厚生労働省人口動態統計（山梨県・全国）

●低出生体重児出生割合の推移



資料：山梨県人口動態統計（甲斐市）、厚生労働省人口動態統計（山梨県・全国）

第3節 死亡の状況

(1) 死亡数・死亡率

死亡数は、平成28年は577人でしたが、令和3年は637人となっており、増加傾向がみられます。性別でみると、いずれの年も男性が女性を上回っています。

死亡率は、令和3年は8.5となっており、山梨県や全国を常に下回って推移しています。

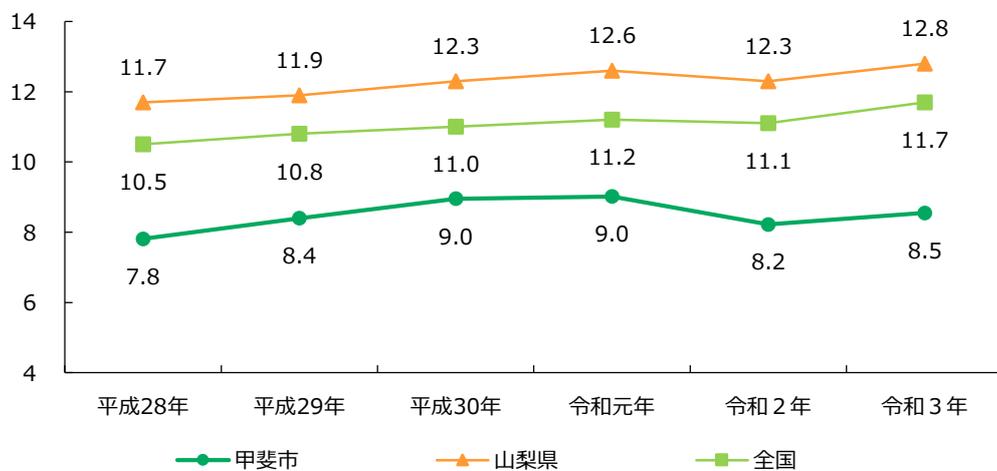
●死亡数・死亡率の推移

		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
甲斐市	死亡数(人)	577	621	664	669	611	637
	男性	293	331	339	371	322	338
	女性	284	290	325	298	289	299
	死亡率(人口千対)	7.8	8.4	9.0	9.0	8.2	8.5
山梨県	死亡率(人口千対)	11.7	11.9	12.3	12.6	12.3	12.8
全国	死亡率(人口千対)	10.5	10.8	11.0	11.2	11.1	11.7

資料：山梨県人口動態統計（甲斐市）、厚生労働省人口動態統計（山梨県・全国）

●死亡率の推移

(人口千対)



資料：山梨県人口動態統計（甲斐市）、厚生労働省人口動態統計（山梨県・全国）

(2) 死亡原因

平成28年から令和3年までの死因別死亡数をみると、第1位はいずれも悪性新生物（がん）であり、死亡総数に対する割合は、毎年3割前後で推移しています。

令和3年の死因割合をみると、悪性新生物、心疾患（高血圧性を除く）、脳血管疾患の3大生活習慣病が全体の約5割を占めています。

● 5大死因別死亡数・割合の推移

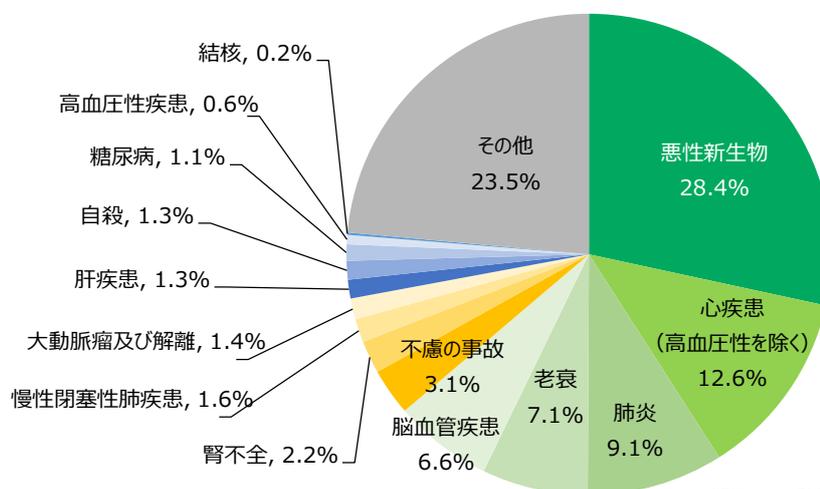
単位：人

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
平成28年	死因	悪性新生物	心疾患*	脳血管疾患	肺炎	老衰	
	死亡数	155	78	67	64	36	
	割合	26.9%	13.5%	11.6%	11.1%	6.2%	
平成29年	死因	悪性新生物	心疾患*	老衰	肺炎	脳血管疾患	
	死亡数	188	106	47	41	39	
	割合	30.3%	17.1%	7.6%	6.6%	6.3%	
平成30年	死因	悪性新生物	心疾患*	脳血管疾患	肺炎	老衰	
	死亡数	205	100	59	49	43	
	割合	30.9%	15.1%	8.9%	7.4%	6.5%	
令和元年	死因	悪性新生物	心疾患*	肺炎	脳血管疾患	老衰	
	死亡数	181	90	64	59	45	
	割合	27.1%	13.5%	9.6%	8.8%	6.7%	
令和2年	死因	悪性新生物	心疾患*	脳血管疾患	肺炎	老衰	不慮の事故
	死亡数	174	84	48	48	46	22
	割合	28.5%	13.7%	7.9%	7.9%	7.5%	3.6%
令和3年	死因	悪性新生物	心疾患*	肺炎	老衰	脳血管疾患	
	死亡数	181	80	58	45	42	
	割合	28.4%	12.6%	9.1%	7.1%	6.6%	

* 心疾患は高血圧性を除く

資料：山梨県人口動態統計

● 死因割合（令和3年）



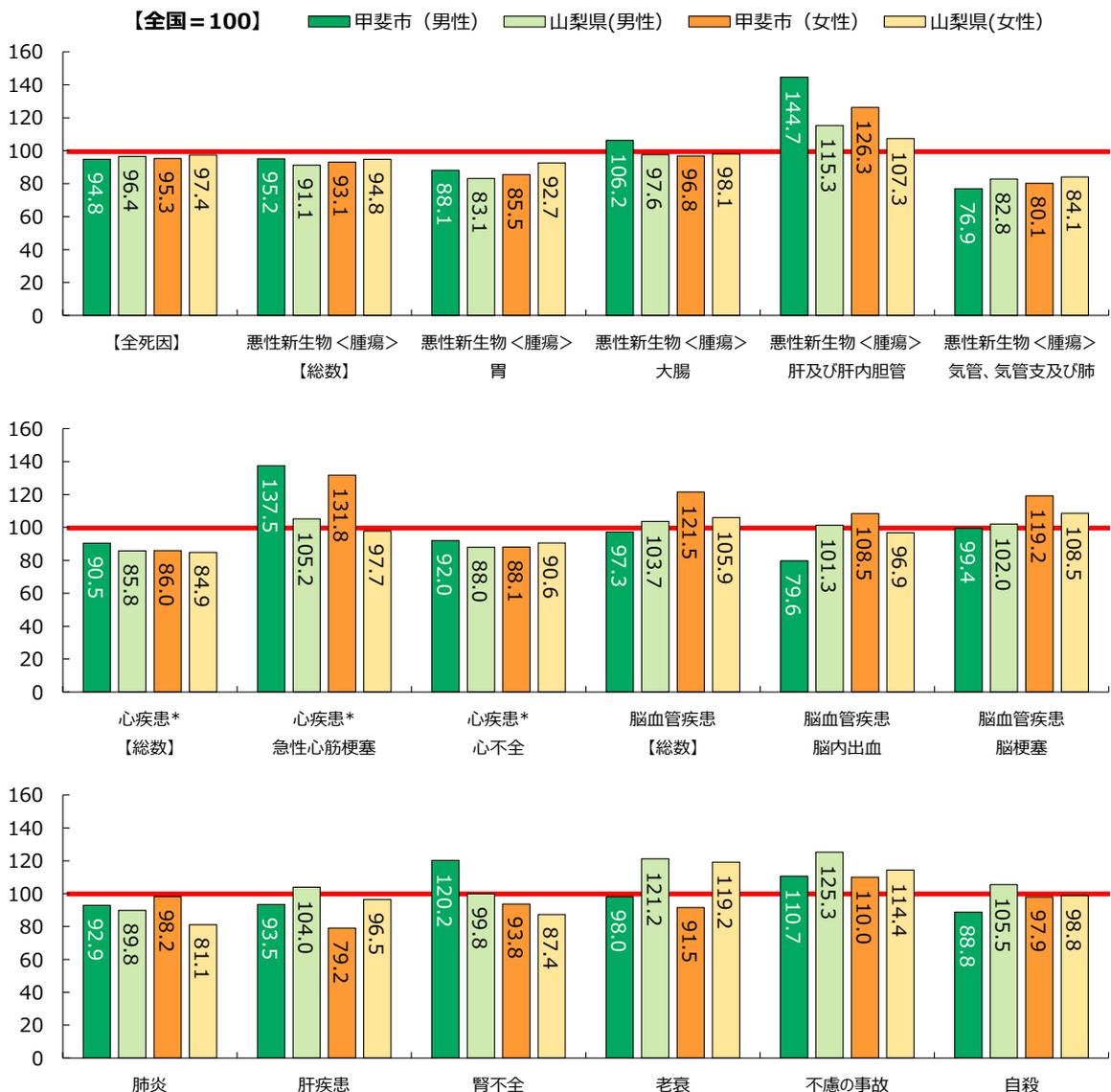
資料：山梨県人口動態統計

(3) 標準化死亡比

平成25年から平成29までの標準化死亡比*をみると、全国を100とした場合、本市の男性は94.8、女性は95.3であり、山梨県よりわずかに下回っています。

主要死因別でみると、本市の男性において、悪性新生物（大腸、肝及び肝内胆管）、心疾患（急性心筋梗塞）、腎不全、不慮の事故が高くなっています。女性においては、悪性新生物（肝及び肝内胆管）、心疾患（急性心筋梗塞）、脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞）、不慮の事故が高くなっています。

●主要死因別標準化死亡比【ベース推定値】（平成25年～平成29年）



* 心疾患は高血圧性を除く

資料：人口動態統計特殊報告

※標準化死亡比：性、地域ごとに「期待死亡数」（その地域の死亡率が全国値と同等であると仮定したときの死亡数）に対する「実際の死亡数」の比を100倍したものであり、年齢構成の違いの影響を除いたものとして死亡状況の比較に用いている。標準化死亡比が100より大きい場合、その地域の死亡率は全国より高いと判断され、100より小さい場合、全国より低いと判断される。

第4節 平均寿命・高齢者の状況

(1) 平均寿命

平均寿命は、男女ともに平成27年から約1年延伸しており、令和2年は男性82.3歳、女性88.2歳となっています。令和2年の平均寿命を山梨県や全国と比較すると、男女ともにやや上回っています。

●平均寿命

単位：歳

	平成27年		令和2年	
	男性	女性	男性	女性
甲斐市	81.1	87.3	82.3	88.2
山梨県	80.9	87.2	81.7	87.9
全国	80.8	87.0	81.5	87.6

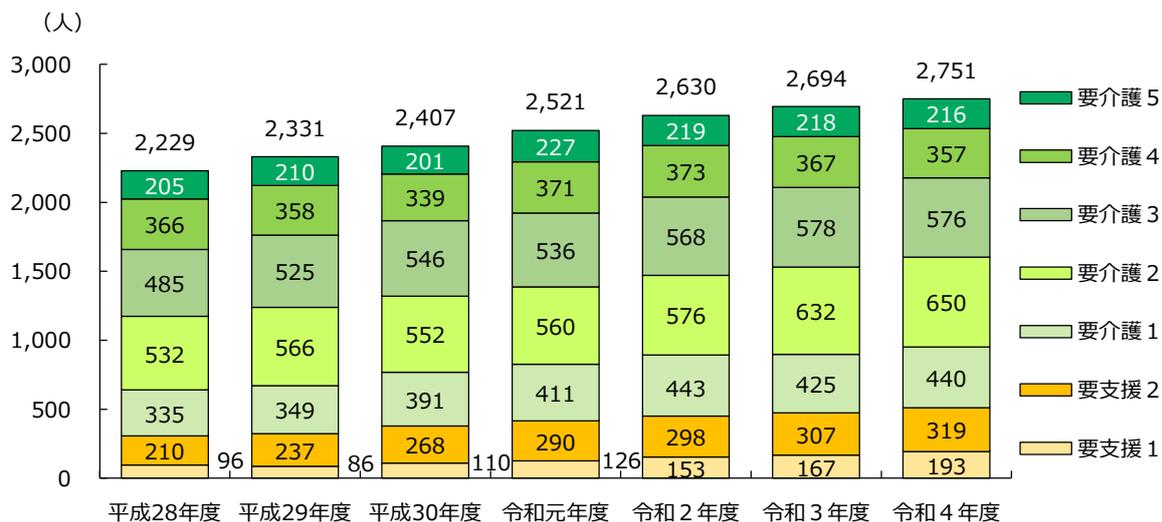
資料：厚生労働省市区町村別生命表（甲斐市）、厚生労働省都道府県別生命表（山梨県・全国）

(2) 第1号被保険者の要介護（要支援）認定者数

第1号被保険者（65歳以上の人）の要介護（要支援）認定者数の推移をみると、増加の一途をたどっており、令和4年度は2,751人となっています。

要介護度別にみると、平成28年度と令和4年度を比較した場合、要介護4と要介護5は人数がほぼ変わらないものの、要支援1・2、要介護1～3はそれぞれ約100人増加しています。

●第1号被保険者の要介護（要支援）認定者数の推移

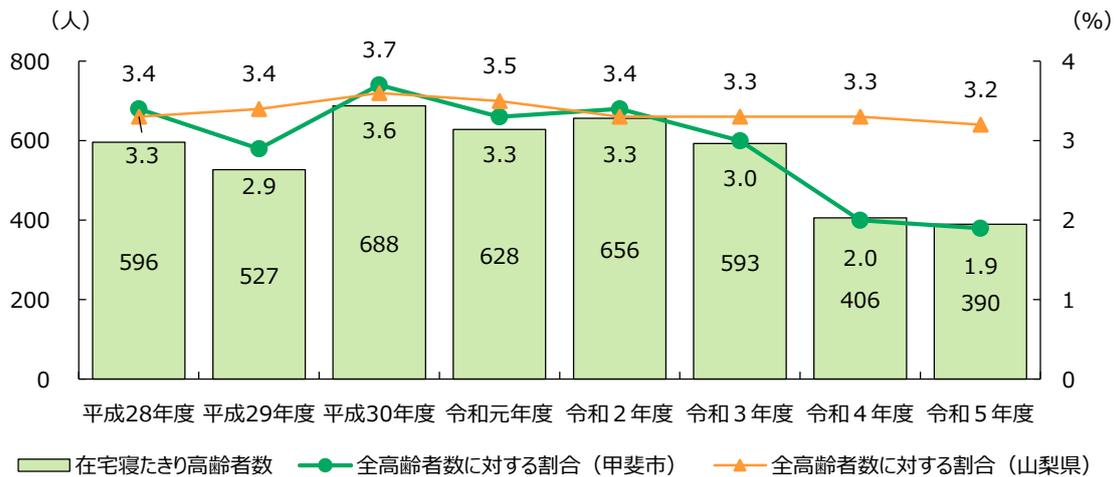


資料：介護保険事業状況報告（年報）

(3) 在宅寝たきり高齢者数・割合

在宅寝たきり高齢者数は、令和3年度までは500～600人台で推移していましたが、令和4年度以降は400人前後となっています。全高齢者数に対する割合は、令和4年度以降2%前後で推移しており、山梨県に比べて低くなっています。

●在宅寝たきり高齢者数・割合の推移



資料：山梨県高齢者福祉基礎調査

(4) 認知症高齢者数・割合

認知症高齢者数は、令和2年度以降、1,400人台で推移していましたが、令和4年度以降は1,500人以上となっています。全高齢者数に対する割合は、令和4年度には8.1%まで上昇しましたが、常に山梨県を下回る水準となっています。

●認知症高齢者数・割合の推移



資料：山梨県高齢者福祉基礎調査

第5節 医療費の状況

(1) 国民健康保険医療費

甲斐市の被保険者一人あたりの医療費は、増加傾向にあり、令和4年度では375,504円となっています。これを山梨県と比較すると、平成28年度以降、常に山梨県より低くなっています。

●国民健康保険運営状況

	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
国民健康保険加入者数(人)	17,691	16,768	15,973	15,564	15,351	14,971	14,282
加入率(%)	23.6	22.3	21.2	20.6	20.3	19.7	18.7
一人あたり保険料(円)	99,818	100,293	102,446	97,806	93,251	94,102	89,767
一人あたり医療費(円)	322,251	335,792	344,822	352,750	348,561	361,852	375,504
山梨県一人あたり医療費(円)	338,003	346,472	355,202	365,007	355,155	379,370	—

資料：国民健康保険事業状況（山梨県）

(2) こども医療費

こども医療費の助成対象については、令和3年度までは小学生までが窓口無料となっており、中学生は通院費・入院費、高校生は入院費のみを償還払いとしていました。令和4年度以降は、窓口無料の対象年齢を18歳（高校生世代）まで拡大しています。

●こども医療費運営状況

	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
助成対象者数(人)	10,494	12,069	12,123	11,948	11,366	10,489	12,077
助成総数(件)	155,625	156,060	159,252	158,251	126,358	140,960	174,560
対象者一人あたりのレポート件数(件)	15	13	13	13	11	13	14
対象者一人あたりの助成金額(円)	26,280	23,679	24,530	25,299	22,126	28,517	30,125

資料：甲斐市子育て支援課

●助成対象の変遷

年度	対 象 者			
	未就学児	小学生	中学生	高校生
平成19年度～	○(窓口無料)	—	—	—
平成21年度～	○(窓口無料)	○(窓口無料)	—	—
平成28年度～	○(窓口無料)	○(窓口無料)	○(償還払い)	—
平成29年度～	○(窓口無料)	○(窓口無料)	○(償還払い)	○(償還払い) ※入院のみ
令和4年度～	○(窓口無料)	○(窓口無料)	○(窓口無料)	○(窓口無料)